



活動紹介
石西
ブロック

がんサロンを通して

益田組 専光寺 朽畠宏樹

私が、がんサロンに関わらせていただいたのは、約3年前、50代後半のご門徒さんが前立腺がんで益田日赤病院へ入院されたことでした。普段からとてもお元気でご法座や奉仕作業などにも積極的に参加していただいていたので大変驚きました。お見舞いに伺うと廊下まで聞こえるくらいの声でお正信偈のお勤めをされていたのを覚えています。

僧侶でありながら法衣姿で病院に行くことをためらい普段着で行った私に本気で病気の方との関わりを考える大きなきっかけをいただいた出来事でした。

お坊さんといえば、葬式や法事など人が亡くなられた後に縁ができる人という印象が強く、そんな黒衣をまとった人が心身の弱っている人、場合によっては死に瀕している人のいる病院へ行くなんてとんでもないと言うのが本当のところでしょう。

しかし、身体的な苦痛は医療的処置で緩和できても、死んだらどうなるのだろうという精神的不安は常にあります。「若さん私たちのがんサロンの勉強会に参加してくれませんか」何回目かのお見舞いの後、そんな話をいただきました。若輩者の私に何ができるだろう？ 迷いながらの承諾でした。それは今も変わりありません。ター

ミナル(終末期)というごく限られた確かにそれは密度の濃い大切な時間です。こちらからの一方通行にならないように話を耳を傾けお互いの距離を縮めて、話しやすい雰囲気を作り共に悩みを分かち合うよう心掛けていますつもりですが、人生の大先輩を前にただただ頷くだけの繰り返しです。

サロンを通して、初めのころの僧侶としてそれでも何かを伝えるんだと息巻いて緊張していた自分が、共に向かい合い話し悲しみ笑い時にはぶつかり合い、それでも頷いてくれるサロンの方たちに「寄り添う」というビハーラの大切なところを伝えてもらったように思います。

私の活動は、まだ始まったばかりです。毎日が私自身の学びの場です。



■ビハーラ山陰役員名簿

任期：2018年4月1日～2020年3月31日

役職	組名	寺院名	氏名
会長	江津	西教寺	三谷卓良
副会長	大田西	法久寺	特留宣裕
//	浜田	光西寺	廣崎勝美
理事	鳥取因幡	浄宗寺	片上優子
//	神門	眞宗寺	堀西雅亮
//	出雲南	善徳寺	楠智加子
//	邑智東	高善寺	武田正文
//	益田	専光寺	朽畠宏樹
監事	出雲	宗玄寺	上田 覚
//	飯南	福蔵坊	高橋浩文
顧問	浜田	真行寺	渡邊哲彦
//	出雲	宗玄寺	藤森観海
//	(教務所)	(所長)	高橋格昭
事務局	(教務所)	(職員)	黒河敬生

編集後記

2月17日・18日と本山において第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会が開催されました。1987(昭和62)年にビハーラ活動がはじまって30年が経過しましたが、その間活動を取り巻く環境も少しずつ変化してきているように思います。統計によると1950年代は、約8割の人が自宅で亡くなっていたのが、最近では逆に約8割の人が病院で亡くなるようになったそうです。

一方、終末期医療に関する調査では、約6割の人は自宅療養を希望しておられ、また国は現在、在宅医療を推進しています。施設での活動が中心となっているビハーラ活動のあり方も今後、地域や在宅へ、そして一人であっても一人にしない活動へと変化を求められているように思います。

(事務局)